

令和6年度以降 学科到達目標(評価指標) 専門的能力【地域生活支援学科_介護福祉コース】

※レベルを飛び越えて評価できません。「Level 1」に達していない場合は、「Level 1未満」とします。

※レベル評価では、該当する全ての内容を達成していなければなりません。

コンピテンシー	到達目標	ベンチマーク 初歩的 Level1	マイルストーン 萌芽的 Level2	マイルストーン 達成的 Level3	キャップストーン 模範的 Level4 以上
I (態度・志向性)	<p>【地域生活支援学科共通】</p> <p>1) 食と福祉と多文化にまたがる複合的分野に対して、自ら積極的に興味を持って学修でき、「知識と技術の横のつながり」を人々の生活支援のために自律的に発揮できる能力を有している。</p>	<p>□地域で生活している人々への支援活動を行うことが、将来の自分の仕事であるとの自覚と意識を持っている。</p> <p>□人々の生活支援に対して、「食生活に関する分野」と「福祉生活に関する分野」と「多文化下の生活の多様性に関する分野」での知識と技術の横のつながりの必要性を認識し、その修得に興味を持つことができる。</p> <p>□人々の生活支援に対して、「いのち(生きること)の大切さ」と「くらし(安全で安心な日々の営み)の大切さ」と「人生(人が生れてから死ぬまでの各ライフステージ)のあり方」に興味を持って考えることができる。</p>	<p>□地域で生活している人々への支援活動の方法について、現在自分が学修している知識と技術を、ある程度具体的に対応させて考えることができる。</p> <p>□人々への生活支援活動に対して、自分が専門とする「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の各専門知識と技術を主体的に活用すると共に、他領域の人とのコミュニケーションや知識を複合化して、多様な対応ができる柔軟性を有している。</p> <p>□人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや生活嗜好およびライフスタイルに合わせて、学修した知識と技術を効果的に結び付けることを企画することができる。</p>	<p>□地域生活者への支援活動と地域の活性化活動に対して、自分が修得している知識と技術をどのように活かして貢献できるかを明確に示すことができる。</p> <p>□人々への生活支援活動に対して、自分が専門に学んだ「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の知識と技術を、他領域の知識と複合化してサポートすることに主体的に率先して具体的に対応ができる。</p> <p>□人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや生活嗜好およびライフスタイルに合わせて、学修した知識と技術を的確に適用して実践的な立案と計画を立てることができる。</p>	<p>□地域生活者への支援活動と地域の活性化への貢献に対して、自分が修得した専門の知識と技術をどのように活かせるかを明確に考え、自分の将来の職業としてのグランドデザインが描け、具体的な職種として明確に提示することができる。</p> <p>□地域の人々への生活支援活動に対して、自分が専門に学んだ「食生活」または「福祉生活」あるいは「多文化生活」の知識と技術を、他領域の知識や異なった分野の人と協調して複合的に活用して実践対応ができる。</p> <p>□地域の人々の安全で安心な暮らしへの支援活動を、対象者の各ライフステージや多様な生活嗜好とライフスタイルなどに対応して、学修した知識と技術を的確かつ柔軟に適用して実践的に行動できる。</p>
	<p>【介護福祉コース】</p> <p>2) 他者に共感でき、人権擁護の視点、職業倫理を身につける。</p> <p>① 相手の立場を理解し共感・受容できる。 ・豊かな感性、社会人としてのマナーを身につける。</p> <p>② 人間に対する尊厳を保持し、自立(律)した生活を支える必要性を理解できる。</p> <p>③ 介護福祉士としての職業倫理と権利擁護のしくみが理解できる。 ・介護福祉士の義務規定を理解できる。 ・介護福祉士の倫理綱領を理解できる。</p>	<p>□豊かな感性や、人間に対する深い洞察力をもつことは、まだ十分とはいえないが、相手の立場を理解し、社会人としてのマナー等、少しは身につけている。</p> <p>□人間に対する尊厳を保持し、自立(律)した生活を支える必要性について少しは理解できる。</p> <p>□権利擁護、倫理綱領についての理解は十分とはいえないが、介護福祉士の義務規定は理解できる。</p>	<p>□豊かな感性や、人間に対する深い洞察力をもつこと、相手の立場を理解し、社会人としてのマナー等は、ある程度は身につけている。</p> <p>□人間に対する尊厳を保持し、自立(律)した生活を支える必要性についてある程度は理解できる。</p> <p>□権利擁護、倫理綱領については、ある程度は理解でき、介護福祉士の義務規定は理解できる。</p>	<p>□豊かな感性や、人間に対する深い洞察力をもつこと、相手の立場を理解し、社会人としてのマナー等は、だいたい身につけている。</p> <p>□人間に対する尊厳を保持し、自立(律)した生活を支える必要性についてだいたい理解できる。</p> <p>□権利擁護、倫理綱領については、だいたい理解でき、介護福祉士の義務規定は理解できる。</p>	<p>□豊かな感性や、人間に対する深い洞察力をもつこと、相手の立場を理解し、社会人としてのマナー等は、十分身につけている。</p> <p>□人間に対する尊厳を保持し、自立(律)した生活を支える必要性について十分理解できる。</p> <p>□権利擁護、倫理綱領については十分理解でき、介護福祉士の義務規定は理解できる。</p>
	<p>【介護福祉コース】</p> <p>3) 利用者本位のサービスを提供し、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。</p> <p>① 介護を必要とする人やその家族の心理を理解できる。 ・人間に対する深い洞察力をもつことができる。</p> <p>② 保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割について理解できる。 ・組織における報告・連絡・相談の必要性を理解できる。</p> <p>③ 施設・在宅におけるチームアプローチの方法、報告・連絡・相談ができる。</p>	<p>□保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割について少しは理解できる。</p> <p>□組織における報告・連絡・相談の必要性についてある程度は理解できる。</p> <p>□施設・在宅におけるチームアプローチの方法、関連する他職種連携の意義と目的について少しは理解し説明ができる。</p>	<p>□保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割についてある程度理解できる。</p> <p>□組織における報告・連絡・相談の必要性はだいたい理解できる。</p> <p>□施設・在宅におけるチームアプローチの方法、関連する他職種連携の意義と目的についてはまあまあ理解できる。</p>	<p>□保健・医療・福祉等の専門職の業務内容と機能、役割について概ね理解できる。</p> <p>□組織における報告・連絡・相談の必要性を概ね理解できる。</p> <p>□施設・在宅におけるチームアプローチの方法、関連する他職種連携の意義と目的について概ね理解できる。</p>	<p>□多職種の機能、役割について十分理解し、協働によるチームアプローチの必要性が理解できる。</p> <p>□組織における報告・連絡・相談の必要性について十分理解できる。</p> <p>□施設・在宅におけるチームアプローチの方法、関連する他職種連携の意義と目的について十分理解できる。</p>
II (知識・理解)	<p>【地域生活支援学科共通】</p> <p>1) 地域の特性に密着した日常レベルでの衣・食・住を根幹とした生活科学分野と人文・社会・自然の各科学分野とを連携した複合的知識と技術を有している。</p>	<p>□地域の衣、食、住などのローカルな文化にも興味を持って学修でき、地域の人々への生活支援活動に役立てていくことを考えることができる。</p> <p>□一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)に興味を持って学修でき、それを地域の人々への生活支援活動に役立てていくことを考えることができる。</p> <p>□地域文化と異文化を融合して、シームレスな国際化社会で活躍していくことの重要性を理解できる。</p>	<p>□地域の衣、食、住などのローカルな諸文化について学修した内容を理解できており、地域の人々への生活支援活動にどのように役立てていけるかを具体的に示すことができる。</p> <p>□一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)について学修した内容を理解できており、地域の人々への生活支援活動にどのように役立てていけるかを具体的に示すことができる。</p> <p>□地域の衣、食、住などのローカルな諸文化と人文、社会、自然科学分野の知識を連携して、地域の人々への生活支援活動に複合的に活用する方法を具体的に考えて示すことができる。</p>	<p>□地域の衣、食、住などのローカルな諸文化について学修した内容を、地域の人々への生活支援活動の方法として、ある程度実践的に活用することができる。</p> <p>□一般教養としての人文、社会、自然科学分野(リベラルアーツ)について学修した内容を、地域の人々への生活支援活動の方法として、ある程度実践的に活用することができる。</p> <p>□地域の衣、食、住などのローカルな諸文化と人文、社会、自然科学分野の知識を連携して、地域の人々への生活支援活動に活用する方法として、ある程度複合的に活用して実践することができる。</p>	<p>□地域のローカルな生活特性と人々の多様な考え方やライフスタイルを尊重しながら、身に付けた豊富な教養知識を自然態で活用して、生活支援の専門職業人として社会で活躍できる自信がある。</p> <p>□修得した教養を実践的に活用し、ホスピタリティ精神(おもてなしの心)溢れる柔軟な対応で、「食」や「福祉」や「多文化」の各分野での専門職業人として、社会貢献と地域の人々への生活支援活動ができる具体的な職業へのグランドイメージ(人生設計)を示すことができる。</p> <p>□地域の衣、食、住などのローカルな諸文化知識と人文、社会、自然科学分野の基礎教養知識を複合的に連携しながら、地域の人々の生活の質(QOL:Quality of Life)の向上を目指して、生活支援の専門家(プロフェSSIONAL)としての具体的な職業に就く強固な意志を持っている。</p>
	<p>【介護福祉コース】</p> <p>2) あらゆる介護場面に共通する基礎的な知識・技術を修得する。</p> <p>① 生活の概念や自立に向けた生活支援の知識や技術を習得し、説明できる。 ・自立に向けた日常生活における生活支援技術や介護予防、生活援助(家事援助)の知識や方法を理解できる。</p> <p>② 介護に必要な医学的な知識や心理について理解できる。</p> <p>③ 介護に関する社会保障(介護保険制度・障害者総合支援法等)の施策について理解できる。 ・介護に関連するその他の制度・施策が理解できる。</p> <p>④ ケアマネジメントのシステムについて理解できる。</p>	<p>□生活の概念や生活支援の考え方、自立に向けた日常生活における生活支援技術(介護予防、生活援助)の知識や方法について少しは理解できる。</p> <p>□介護に必要な医学的な知識や心理について少しは理解できる。</p> <p>□介護保険制度、ケアマネジメントのシステム、関連するその他の制度・施策についての理解は十分とはいえないが、介護に関する社会保障の制度、障害者総合支援法等についてはある程度理解できる。</p>	<p>□生活の概念や生活支援の考え方、自立に向けた日常生活における生活支援技術(介護予防、生活援助)の知識や方法についてある程度は理解し実践できる。</p> <p>□介護に必要な医学的な知識や心理についてある程度は理解できる。</p> <p>□介護保険制度、ケアマネジメントのシステム、関連するその他の制度・施策、介護に関する社会保障の制度、障害者総合支援法等についてはだいたい理解できる。</p>	<p>□生活の概念や生活支援の考え方、自立に向けた日常生活における生活支援技術(介護予防、生活援助)の知識や方法についてだいたいは理解し実践できる。</p> <p>□介護に必要な医学的な知識や心理について概ね理解し実践できる。</p> <p>□介護保険制度、ケアマネジメントのシステム、関連するその他の制度・施策、介護に関する社会保障の制度、障害者総合支援法等については概ね理解できる。</p>	<p>□生活の概念や生活支援の考え方、自立に向けた日常生活における生活支援技術(介護予防、生活援助)の知識や方法について理解し実践できる。</p> <p>□介護に必要な医学的な知識や心理について理解し実践できる。</p> <p>□介護保険制度、ケアマネジメントのシステム、関連するその他の制度・施策、介護に関する社会保障の制度、障害者総合支援法等については理解できる。</p>
	<p>【介護福祉コース】</p> <p>3) 介護過程の意義と目的を理解し、利用者に適したアセスメントができる。</p> <p>① アセスメントに際し、ICFを理解し、将来の予測を考察することができる。 ・介護過程の意義と目的が理解できる。 ・アセスメントの必要性が理解できる。 ・利用者の潜在能力を引き出し、利用者に適したアセスメントができる。 ・利用者の生活における将来の予測について説明できる。</p> <p>② アセスメントに基づいた介護計画が立案できる。 ・介護実践に際し、その根拠が説明できる。</p>	<p>□介護過程の意義と目的についてある程度は理解できる。</p> <p>□アセスメントに基づいた介護計画の立案はできないが、アセスメントの必要性、ICFの理解、利用者に適したアセスメントについてある程度はできる。</p> <p>□介護実践に際し、その根拠についてある程度は説明することができる。</p> <p>□自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための方法は十分とはいえないが、知識については理解できる。</p>	<p>□介護過程の意義と目的についてだいたいは理解できる。</p> <p>□アセスメントに基づいた介護計画の立案は、少しは理解でき、アセスメントの必要性、ICFの理解、利用者に適したアセスメントについてはだいたいはできる。</p> <p>□介護実践に際し、その根拠についてだいたいは説明することができる。</p> <p>□自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識を理解し、活用方法はだいたいはできる。</p>	<p>□介護過程の意義と目的について概ね理解できる。</p> <p>□アセスメントに基づいた介護計画の立案は概ね理解でき、アセスメントの必要性、ICFの理解、利用者に適したアセスメントについては理解できる。</p> <p>□介護実践に際し、その根拠について概ね説明することができる。</p> <p>□自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識を理解し、活用方法は概ねできる。</p>	<p>□介護過程の意義と目的について理解できる。</p> <p>□アセスメントに基づいた介護計画の立案、アセスメントの必要性、ICFの理解、利用者に適したアセスメントについては理解できる。</p> <p>□介護実践に際し、その根拠について説明することができる。</p> <p>□自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識を理解し、活用することができる。</p>

	<p>③ 自立に向けた自助具・福祉用具を活用するための知識や方法を理解できる。 ・利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法を理解できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法について少しは理解できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法についてだいたい理解できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法について概ね理解できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者の自己実現に向けた生活支援の知識や方法について十分理解できる。</p>
III (技能表現)	<p>[地域生活支援学科共通] 1) どのような状況の変化と人々にも対処できる食と福祉と多文化にわたる汎用性のある知識と幅広く活用できる技能および柔軟な人間性を持った有機的な生活支援ができるコンシェルジュにふさわしい能力を有している。</p>	<p><input type="checkbox"/> 「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識あるいは技術の他にも、連携活用できる他領域の学修への興味を持っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の人々への生活支援活動は、単領域の専門家(プロフェッショナル)と関連する多くの異なる分野の各専門家との協力が必要であることを理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 関連する異なる学問領域の専門家とも協調しながら、自分のプロとしての知識と技術を活用して、地域の人々への生活支援がしたいとの強い意志を持っている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の学修も行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の特性と人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる関連領域の知識と技術を援用しながら、人々への生活支援活動ができるための学びの準備が進んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達とも協調しながら、地域の人々への生活支援のプロとしての知識と技術の修得が順調にできている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の主となる知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の基本的知識および技能などを含めて広範な支援能力が身に付いてきている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の特性とその地で生活している人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に異なる関連領域の知識と技術を援用しながら、人々への広範な生活支援活動ができるための能力が身に付いてきている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達とも協調しながら、地域の人々への生活支援の汎用的専門家(コンシェルジュ)としての知識と技術の修得も順調にできている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 「食」と「福祉」および「多文化」の学びの中で、自分が将来地域の人々への生活支援活動を行う場合の根幹とする知識と技術の他にも、連携活用できる他領域の基本的知識および技能などの修得ができており、専門職業人として、および汎専門的立場での広範な生活支援能力が身に付いている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の特性とその地で生活している人々の多様な考え方やライフスタイルなどに柔軟に対応して、自己の専門性を活かすと共に関連する異なる領域の知識と技術を援用しながら、人々への広範な生活支援活動ができるコンシェルジュとしての自覚も持っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関連する異なる学問領域で専門家として活動するために学んでいる人達共、自己の専門性を活かしながら協調連携して、地域の人々に対して多様な生活支援が汎用的専門家(コンシェルジュ)としても可能な広範な知識と技術の修得と蓄積ができてきている。</p>
	<p>[介護福祉コース] 2) 利用者の情報を収集・分析し、介護計画作成、実践、評価について理解できる。 ① 利用者信頼関係を結ぶためのコミュニケーションをとることができる。 ・言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要を理解できる。 ・形態別にコミュニケーションがとれるための知識・技術を習得し実践できる。 ・チームケアに必要なコミュニケーションの技法を習得し実践できる。 ② 介護過程の一連の流れを理解し、在宅と施設介護の相違を説明できる。 ③ 記録の必要性を理解し、的確な記録・記述ができる。 ・5W1Hを念頭に入れて記録することができる。 ・パソコンを介護業務に活用することができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者信頼関係を結ぶためのコミュニケーションを図るため、形態別やチームケアに必要なコミュニケーションをとることは十分できるとはいえないが、言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要についてある程度は理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 在宅と施設の介護過程についての説明はできないが、介護過程の一連の流れについて少しは説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 的確な録・記述についてはまだできるとはいえないが、記録の必要性を理解はできる。</p> <p><input type="checkbox"/> パソコンを介護業務に活用することはまだできるとはいえないが、5W1Hを念頭に入れて記録する必要性はできる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者信頼関係を結ぶためのコミュニケーションを図るため、形態別やチームケアに必要なコミュニケーションをとることはだいたいできる。また、言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要についてもだいたい理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 在宅と施設の介護過程について少しは説明でき、介護過程の一連の流れについてだいたい説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 記録の必要性を理解し、的確な録・記述について概ねできる。</p> <p><input type="checkbox"/> パソコンを介護業務に活用し、5W1Hを念頭に入れて記録することは概ねできる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者信頼関係を結ぶためのコミュニケーションを図るため、形態別やチームケアに必要なコミュニケーションをとることができる。また、言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要についても概ね理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 在宅と施設の介護過程についてだいたい説明でき、介護過程の一連の流れについては概ね説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 記録の必要性を理解し、的確な録・記述についてできる。</p> <p><input type="checkbox"/> パソコンを介護業務に活用し、5W1Hを念頭に入れて記録することができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者信頼関係を結ぶためのコミュニケーションを図るため、形態別やチームケアに必要なコミュニケーションをとることができる。また、言語・準言語・非言語のコミュニケーションの概要についても理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 在宅と施設の介護過程について説明し、介護過程の一連の流れについても説明できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 記録の必要性を理解し、的確な録・記述についてできる。</p> <p><input type="checkbox"/> パソコンを介護業務に活用し、5W1Hを念頭に入れて記録することができる。</p>
	<p>[介護福祉コース] 3) 利用者の生活状況に応じ、自立に向けた介護支援技術を習得し、実践できる。 ① 利用者の多様な生活場面における介護実践の方法を理解し、自助具・福祉用具を活用できる。 ・介護や介護予防に関する技術について、利用者の状況に応じた実践ができる。 ② 行った介護について記録や報告が的確にでき、振り返り、次の介護に活かすことができる。 ③ 医療的ケアに関する知識と技術を習得し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方については少し理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者に適した、自立に向けた自助具・福祉用具について少しは活用できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 介護や介護予防に関する技術について、利用者の状況に応じた実践が少しはできる。</p> <p><input type="checkbox"/> 行った介護について記録や報告の方法は少しでき、振り返り、次の介護に活かすことについても少しはできる。</p> <p><input type="checkbox"/> 医療的ケアのねらいや基礎的知識を少しは理解している。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方についてはある程度理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者に適した、自立に向けた自助具・福祉用具についてある程度活用できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 介護や介護予防に関する技術について、利用者の状況に応じた実践はある程度できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 行った介護について記録や報告がある程度でき、振り返り、次の介護に活かすこともある程度できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 医療的ケアのねらいや基礎的知識を理解し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことはある程度習得している。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方については概ね理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者に適した、自立に向けた自助具・福祉用具について概ね活用できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 介護や介護予防に関する技術について、利用者の状況に応じた実践が概ねできる。</p> <p><input type="checkbox"/> 行った介護について記録や報告が的確にでき、振り返り、次の介護に活かすことが概ねできる。</p> <p><input type="checkbox"/> 医療的ケアのねらいや基礎的知識を理解し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 利用者の多様な生活の場における介護実践のあり方については理解できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者に適した、自立に向けた自助具・福祉用具について活用できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 介護や介護予防に関する技術について、利用者の状況に応じた実践ができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 行った介護について記録や報告が的確にでき、振り返り、次の介護に活かすことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 医療的ケアのねらいや基礎的知識を理解し、喀痰吸引等を安全・適切に行うことができる。</p>
IV (行動・経験・創造的思考力)	<p>[地域生活支援学科共通] 1) 生活の要素を科学的に分析・把握することにより生活全般を見渡せる俯瞰能力を身に付けており、経験をもとにした創造的発想ができる。「マルチに学び、マルチに活動する」生活支援のプロフェッショナルにふさわしい能力を有している。</p>	<p><input type="checkbox"/> 地域の活性化と生活支援活動には、人々の具体的生活実態についてのデータを科学的に分析する必要があることが理解できている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の人々のライフスタイルは、非常に多様化しており、その一端のみを垣間見ることは把握できなく、より広範な生活全般(いのち、暮らし、人生)を広い視野から俯瞰的に見渡す能力が必要であることへの認識ができてきている。</p> <p><input type="checkbox"/> 現在学んでいる基本的知識と技術を実践的生活支援活動に活かすためには、経験知と経験を下地にした技能が必要であることへの認識を持っている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 地域の活性化と人々への生活支援活動を行うためのデータの収集方法および科学的に分析する手法などの個々具体的な方法を使用することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の人々の非常に多様化したライフスタイルを、「食」と「福祉」および「多文化」を基盤とし、さらに「いのち(生命)」と「暮らし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを複合的に組み合わせて俯瞰的に対応できる能力の修得ができてきている。</p> <p><input type="checkbox"/> 現在、座学(主に講義授業)をもとに学んでいる基礎的知識と技術に加えて、演習や実習などから得る体験的知識と技能などが身に付き始めている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 地域の活性化と人々への生活支援を科学的見地から行うための広範な分野からのデータの収集と分析活動の具体的な計画の立案と企画ができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の人々の非常に多様化したライフスタイルに対応して支援活動を行うために、「食」と「福祉」および「多文化」を生活基盤とし、これに「いのち(生命)」と「暮らし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを効果的に組み合わせて多面的(マルチ)に考え、学修に臨むことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 学内、特に学外での地域連携活動を活動フィールドとした演習や実習授業で体験的に修得した実践的知識と技能などが着実に身に付いている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 地域の活性化と人々への生活支援を科学的見地から行うための広範な分野からのデータの収集と分析から得た結果を精密に考察した上で、さらに自分なりの考えて人々へのより効果的な支援活動に乗り出すための斬新な発想ができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の人々の非常に多様化したライフスタイル志向に柔軟に対応して支援活動を行うために、「食」と「福祉」および「多文化」を生活基盤とし、これに「いのち(生命)」と「暮らし(営み)」および「人生(生き方)」の支援レベルを効果的に組み合わせて多面的(マルチ)に実践行動することができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 学内、特に学外フィールドでの地域活性化活動および人々の生活の質(QOL:Quality of Life)の向上を目指して、生活支援の専門家(プロフェッショナル)として、実社会での活躍ができる実践能力を持っている。</p>
	<p>[介護福祉コース] 2) 介護福祉士の義務規定を理解し、権利擁護(アドボカシー)の視点や高い倫理性をもって行動できる。 ① 相手の立場に立つことができ、常に利用者本位の視点をもって行動できる。 ② 利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つことができる。 ③ 介護計画に沿った実施、評価ができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 介護福祉士の義務規定や倫理綱領について少し理解し、相手の立場に立ち常に利用者本位の視点をもって少しは行動できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を少しは持つことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 介護計画に沿った実施、評価が少しはできる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 介護福祉士の義務規定や倫理綱領について理解し、相手の立場に立ち常に利用者本位の視点をもって行動することがある程度はできる。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つことがある程度できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 介護計画に沿った実施、評価がある程度できる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 介護福祉士の義務規定や倫理綱領について理解し、相手の立場に立ち常に利用者本位の視点をもって行動することが概ねできる。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つことが概ねできる。</p> <p><input type="checkbox"/> 介護計画に沿った実施、評価が概ねできる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 介護福祉士の義務規定や倫理綱領について理解し、相手の立場に立ち常に利用者本位の視点をもって行動できる。</p> <p><input type="checkbox"/> 利用者の尊厳を保持し、介護福祉士としての介護観を持つことができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 介護計画に沿った実施、評価ができる。</p>
	<p>[介護福祉コース] 3) 他の職種役割を理解し、チームに参画することができる。 ① チームに参画し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることができる。 ② 介護福祉士としての意見を述べるができる。 ③ リーダーシップをとることができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 他職種の役割を理解し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることができるよう努めている。</p> <p><input type="checkbox"/> チーム内で意見を述べるには不安があが、介護福祉士としての意見はある。</p> <p><input type="checkbox"/> 他職種のチーム内では自信がないが、同僚の中では少しは意見を述べるができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 他職種の役割を理解し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることが少しはできる。</p> <p><input type="checkbox"/> 介護福祉士としてチーム内で意見を述べることはある程度はできる。</p> <p><input type="checkbox"/> 他職種のチーム内および、同僚の中である程度は意見を述べるができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 他職種の役割を理解し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 介護福祉士としての意見を概ね述べるができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 同僚・他職種とのチーム内の中でも概ねリーダーシップをとることができる。</p>	<p><input type="checkbox"/> 他職種の役割を理解し、同僚・多職種協働によるチームアプローチを図ることができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 介護福祉士としての意見を堂々と述べるができる。</p> <p><input type="checkbox"/> 同僚・他職種とのチーム内でもリーダーシップをとることができる。</p>